番号	59	作井手天満宮縁起		
所在地		伊万里市二里町中里甲３２８８－２		
災害別		昭和２３年（１９４８）水害		
目的別		記念碑	建立年	昭和５３年３月
特記事項				

作井手（つくいで）天満宮は、以前は現在地より川下２００メートルの地点に鎮座していたが、昭和２３年９月１１日から１２日の水害で被害を受け、その後、有田川改修に伴い作井手集落の移転とともに現在地に移転した。神社の縁起を記した境内の説明板には、次のように記されている。

「作井手天満宮　祭神　菅原道真公（太宰府天満宮）　縁起　天満宮の当初はさだかではないが天明六年（一七八六年）に再興され、現在の祠は元治元年（一八六四年）に建立され、菅公一千年の記念のため明治三十五年に境内に盛土して記念燈や石段が設けられている。現在地の天満宮は、これより川下二百米の有田川ぞいに鎮座されていたが、昭和二十三年九月の大水害によって鳥居・灯篭・老松などが流出し、その後もしばしば水害に見舞われたので、国において有田川河川改修が行われ、氏子三十四戸の移転と共にこの地に鎮座を請い、氏子の家内安全と繁栄を祈願し、学問の神様として崇拝されている。

境内に植えられている梅や桜の樹木は、水害当時の十五日会のメンバーにより、昭和三十六年と五十四年に植樹し以来その管理手入れを行なってきた。

毎年七月二十五日には夏祭りを行い、子供達のすこやかな成長を願って、奉納された提

灯を掲げ子供達に花火遊びをさせたり、十一月二十五日の秋祭りでは、氏子一同集まり酒食を供して親睦をはかり、正月には大きな連縄作りも氏子の大切な役目として引継がれている。

太宰府天満宮の飛梅講の氏子も現在十四名で、吉永伊兵衛の子孫の吉永家が、父祖六代に渡りその支部長をつとめ神徳の発揚につとめている。」

国土地理院電子国土 Web